

実務経験のある教員の主な授業科目の一覧表

配当学年	授業科目名	単位数	区分	担当教員	職位	実務経験	実務経験の授業等への活用
2	看護過程論	1	必修	山田 秀樹	教授	看護師	実務経験を看護過程の展開における実践的な論理の構築と指導に活かしている
				鈴木 浩美	准教授	看護師	
				佐藤 直子	専任講師	看護師	
				穴戸 裕子	助教	看護師	
2 3	母性看護支援論Ⅰ 母性看護支援論Ⅱ	1	必修	大賀 明子	教授	助産師	母性看護学の実際を理論的に説明することや実技を通じて実務経験を授業内容等に結び付けている
		1		長坂 桂子	准教授	看護師	
				柏木 由美	助教	助産師	
2	小児看護支援論Ⅰ	1	必修	茂手木明美	教授	看護師	小児看護学の実際を理論的に説明することや実技を通じて実務経験を授業内容等に結び付けている
				井上 寛隆	専任講師	看護師	
				坂田 徳生	専任講師	看護師	
3	成人看護学実習Ⅰ	3	必修	高橋 幸子	教授	看護師	成人看護学の実際を理論的に説明することや実技を通じて実務経験を授業内容等に結び付けている
				森川奈緒美	准教授	看護師	
				大和 広美	専任講師	看護師	
				関根みぎわ	助教	看護師	
				藤本 千尋	助教	看護師	
				保坂 嘉成	助教	看護師	
2	老年看護支援論Ⅰ	1	必修	飯室 淳子	准教授	看護師	老年看護学の実際を理論的に説明することや実技を通じて実務経験を授業内容等に結び付けている
				中澤 美弥	助教	看護師	
				阿部祐美子	助教	看護師	
				松岡志津香	助手	看護師	
3	在宅看護支援論	2	必修	小松 妙子	教授	看護師	在宅看護学の実際を理論的に説明することや実技を通じて実務経験を授業内容等に結び付けている
3	精神看護支援論Ⅰ 精神看護支援論Ⅱ	1 1	必修	石川 幸代	教授	看護師	精神看護学の実際を理論的に説明することや実技を通じて実務経験を授業内容等に結び付けている
				原田 瞳	専任講師	看護師	
				笠井 翔太	専任講師	看護師	
2	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	必修	神庭 純子	教授	保健師	公衆衛生看護学の実際を理論的に説明することや実技を通じて実務経験を授業内容等に結び付けている
				伊藤千春	准教授	看護師・保健師	
				霜山 薫	専任講師	保健師	
				石井 可奈	助教	看護師・保健師	
主な授業単位数 合計		14					

授業形態	開講学部	看護		必修	1単位	演習	
	2年次	開講期	前期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目（英名）	看護過程論（Nursing Process:Nursing Practice Methodology）						
担当教員名	◎山田 秀樹・鈴木 浩美・佐藤 直子・穴戸 裕子 (◎は科目責任者)						
<p>〔授業の概要〕 あらゆる対象への看護を導く看護実践方法論として、対象の看護の必要性を認識し対象に必要な看護を系統的に計画し実施・評価する思考の筋道を理解して、その能力を修得する。本科目では、看護の本質への理解に立ち、看護学的な人間の見方・とらえ方の基本をおさえながら、看護過程を展開するために必要な専門的な頭の働かせ方について原理的に学んでいく。</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 1年次に学習した専門基礎科目と専門科目、特に、専門基礎科目の生活過程論や、支援基礎看護分野の看護学概論、ヘルスアセスメントⅠ、生活援助技術、看護実践基礎論、基礎看護実習でつかみ取ったことを意識的に使いながら、学びを発展させていきます。2年次に同時進行する、ヘルスアセスメントⅡ、療養援助技術の学びを連動させて統合しながら、その人のための看護を創り出す力を磨いていきましょう。</p> <p>〔到達目標〕 対象である人間を見つめ、その健康状態をとらえ、看護の必要性を構造的にとり出して、解決の方向性を導く、一連の思考のプロセスを原理的に理解し、看護実践方法論として意識的に適用できる能力の修得を目指す。 1) 看護について・看護の対象である人間についての原理的な理解をもとに、人間の健康状態をとらえる専門的視点をおさえる。 2) 看護の過程性をふまえて、看護過程と看護実践の構造を理解する。 3) 看護過程論の骨子をつかみ、対象の看護の必要性をとらえ実践を導くための方法論として頭の中に定着させる。 ①看護のための対象の見つめ方と対象特性のとらえ方（看護のためのアセスメント）について学ぶ。 ②看護上の問題のとり出し方（＝看護の必要性のとらえ方）と解決の方向性の導き方について学ぶ。 ③系統的な計画・状況に応じた実施と評価について学ぶ。 4) 一連の思考過程を意識的に適用して事例を解き、対象への看護の必要性を明らかにしながら看護実践を導くことができる。</p>							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	1) 科目の概要・看護過程論の学修の位置づけ 2) 看護が持つ性質・特徴、看護過程とは、看護過程論＝看護実践方法論とは 3) 看護のための「頭を働かせる技術」と「体を使う技術」 4) 看護の過程性について ～看護の展開と看護過程の展開			事前学修：支援基礎看護分野の復習(30分) 事後学修：科目の位置づけと学修内容・方法を確認(30分)		山田	
2	1) 看護過程の形式面と内容面 2) 看護理論と看護過程、F. Nightingaleの「三重の関心」 3) 認識論と看護過程、アセスメントと看護過程 4) 方法論としての条件 ～看護に内在する一貫した視点で看護援助を導き出す～、 対象を原理的におさえる、個（体一心）・社会・自然界の7つの矛盾			事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分) 以下に留意して各回の学びを進める 【事前学修のポイント】 ■看護学概論、ヘルスアセスメントⅠ、生活援助技術、基礎看護実習の中で感じてきた看護上の疑問や患者役としての思いなどについてふり返り、また、同時進行するヘルスアセスメントⅡ、療養援助技術でつかんだことを連動させながら、本科目の学修に意図的に用いられるよう、準備しておくこと。 【各回の課題や宿題への取り組み方】 ■各回授業の中で個人やグループの課題として取り組んだ方法論の理解や修得、学修の積み上げや仕上げのための事後課題、授業内で取り上げたテーマや次回につながる準備として示された宿題については、取り組まれたことを前提に進める（次回参加の必須条件）。 【事後学修のポイントと事後課題】 ■演習の個人・グループの成果物は、全授業回終了後に筆記試験相当の課題として提出する。授業時のグループワークや発表を通じた気づきから、各自で追加・修正を考えたことについては、必ず学修の成果として反映して整えておくこと。		山田	
3	1) 意識的に使って実践し修得しよう ～「頭を働かせる技術」と修得レベル 2) 事例とは、事例を通じて学ぶ意義 3) 看護過程論の骨子：現実の情報化－問題の明確化－計画立案－実施－評価 4) 現実の情報化① 生活像・生活力（現象から対象の人生と生活をつかむ） 5) 事実－資料－情報 ～現象をどのように切り取るか 6) 専門的視点で看護するための資料を得る ～生活12項目			事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分)		山田	
4	1) 現実の情報化② 全体像・アセスメント（情報をもとに対象を全人的に理解し、 対象の特性をとらえる） 2) 対象特性の理解（アセスメント）の構造、帰納法と演繹法 3) 看護アセスメント ～看護する上で必要な対象特性＝持てる力をとらえる			事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分)		山田	

5	1) 対象の個別な反応をもとに対象の立場に立って全体像をとらえ、対象がおかれている状況を感じ取り、看護する上での気がかりを確認する 2) 問題の明確化① 解決を要する問題の取り出し 3) 看護上の問題とは、看護の必要性の認識について 4) 対象の看護の必要性を浮かび上がらせる、看護上の問題を構造的にとらえる 5) 問題の明確化② 問題を構造化し、解決のあり方・援助の焦点をとらえる	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分)	山田
6	1) 計画立案 ～問題解決に向けた援助目標の設定と系統的な計画の具体化 2) 実施－評価 ～対象の状況に応じた実施、評価の視点 3) 演習事例配付、事例への取り組み方	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分)	山田
7	事例展開演習1 現実の情報化①：生活像・生活力 *個人・グループワーク、発表	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
8	事例展開演習2 現実の情報化②：全体像 *個人・グループワーク	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
9	事例展開演習3 現実の情報化②：全体像・アセスメント、立場の変換 *個人・グループワーク、発表	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
10	事例展開演習4 問題の明確化①：看護上の問題(解決を要する問題) *個人・グループワーク、発表	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
11	事例展開演習5 問題の明確化②：看護上の問題(問題の構造化と解決の方向性、援助の焦点) *個人・グループワーク、発表	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
12	事例展開演習6 計画立案(一実施－評価)：援助目標設定と計画立案 *個人・グループワーク、発表、発表準備	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
13	事例展開演習7 成果発表 *発表準備、発表	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
14	事例展開演習8 成果発表 *発表	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
15	事例展開演習9 成果発表 *発表 ふり返り、実習に向けた看護過程論修得のための学びのポイント	事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分)	山田・鈴木・佐藤・ 大戸
成績評価の方法と基準	個人課題・レポート70%、授業およびグループ学習への参加姿勢・成果発表30% 以上の関連をふまえて総合して学修を評価します。		
履修上の留意点	本科目では、看護過程論について理解して事例に意識的に使う実践を通じながら、「頭を働かせる技術」として修得していきます。「頭の働かせ方」の理解と修得のために、自らが頭を意識的に働かせる個人ワークとグループワークを軸に双方向授業で展開していくので、自身の頭で参加して、他者の感じ方・考え方からも新たなことをつかみ取りながら学びを発展させていってください。 各回の課題や宿題は、自身の頭の中に学びを積み上げて、看護者としての気づきや理解が進んでいくために意図したものであるため、工夫して既修の学びとつながりを持たせたり、新たに抱いた疑問に向き合ったりして取り組んでください。看護援助実習では、看護過程論を「状況に応じて使う段階」で看護実践します。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	特に、3.4.2.の育みに関連します。		
教科書	三瓶真貴子：新体系の看護理論 看護学矛盾論－unification－ 第2版、金芳堂、2012 他、必要時に資料配付します。		
参考書・参考資料	1) 三瓶真貴子、山田秀樹：基礎看護学resume集－看護理論編一、ブイツーソリューション、2006 2) 薄井坦子：看護のための疾病論 ナースが視る病気、講談社、1994 3) 金川克子、天津栄子編：わかる・使える看護過程 基礎知識と実践展開へのアプローチ、中央法規、2002 他、随時紹介します。関連科目のテキスト・資料を活用しつつ、各自で必要な文献に当たってほしい。		
学生との連絡方法	開講期間を通して、担当教員が教室や研究室、授業支援システムにて担当科目に関する質問を受け付けます。		
実務経験科目	実務経験科目に該当。詳細については、大学ホームページ等を確認してください。		

授業形態	開講学部	看護学部		必修	1	演習	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目 (英名)	母性看護支援論Ⅰ (Maternity Nursing Ⅰ)						
担当教員名	◎大賀 明子・長坂 桂子・柏木 由美 (◎は科目責任者)						
[授業の概要] 妊娠・出産・子育てを、女性のライフサイクルにおける成熟期の発達課題として理解し、周産期のうち妊娠期・分娩期にある親子とその家族に対する支援について学修する。							
[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] ヒューマンセクシュアリティ論、生涯発達論、母性看護学概論、母性看護学実習、病態治療学Ⅲ (小児、母性系) 他							
[到達目標] 1) 妊娠・分娩の生理が理解できる。 2) 妊娠・分娩期をよりよく過ごすための看護が理解できる。 3) 親子やその家族のライフスタイルに合わせた、その人らしい妊娠・出産と子育てまでを展望した支援を考える。 4) 知識を統合して、事例に必要な支援を導き出すプロセスが理解できる。 5) 対象への支援に必要な看護技術を学ぶ。							
回	授業計画	授業外学修 (事前学修・事後学修)			担当者		
1	[授業計画オリエンテーション・ガイダンス] [妊娠期小テスト] [演習 看護過程 妊娠期①]	事前学修(60分): 夏休みの課題を完成させ、妊娠期の看護に関する部分の教科書を精読する。妊娠・出産に関する一般図書を読み、妊娠・出産についてのイメージをもち、夏期休業中の課題や事前学習の知識が事例の理解に適用できるか確認する。過去に出題された妊娠期の看護に関する国家試験問題に取り組む。 事後学修(30分): 小テスト結果を振り返り、教科書等から不足していた知識を補う。授業内容を十分復習する。			大賀		
2	【講義】 妊娠期の看護1 身体的特性 (妊娠の生理・妊娠による母体の生理的変化・胎児の発育と生理)	事前学修(30分): 教科書第3章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題とあわせ、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。			大賀		
3	【演習】 妊娠期にある対象理解と看護技術 妊婦体験・レオポルド触診法・妊婦健診	事前学修(30分): 教科書第3章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題とあわせ、妊娠・出産に関する一般図書や体験記エッセイなどを読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。			長坂 柏木		
4	【講義】 妊娠期の看護2 妊婦と胎児のアセスメントと看護① 妊娠経過とフィジカルアセスメント	事前学修(30分): 教科書第3章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題で不足していた部分を補うとともに、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。			大賀		
5	【講義】 妊娠期の看護3 妊婦と胎児のアセスメントと看護② 妊娠経過と健康相談・健康教育	事前学修(30分): 教科書第3章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題で不足していた部分を補うとともに、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。			大賀		

6	【講義】 妊娠期の看護4 妊娠による心理社会的変化と看護 (出産・育児への準備期における看護)	事前学修(30分)：教科書第3章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題で不足していた部分を補うとともに、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。	大賀
7	【講義】 妊娠期の看護5 ハイリスク妊娠・異常妊娠妊婦の看護 (妊娠期のマイナートラブル、ハイリスク妊娠、合併症妊娠、妊娠期の感染症、妊娠各期の異常と看護)	事前学修(30分)：教科書第3章および第7章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題で不足していた部分を補うとともに、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。	大賀
8	【小テスト②】 分娩期 【演習】 看護過程：分娩期①	事前学修(60分)：教科書第4章を精読する。夏期休業中の課題を見直す。出産に関する一般図書を読み、妊娠・出産についてのイメージをもつ。過去に出題された分娩期の看護に関する国家試験問題に取り組む。 事後学修(30分)：事後学修：小テスト結果を振り返り、教科書、講義内容から不足していた知識を補う。授業内容を十分復習する。	大賀 長坂 柏木
9	【講義】 分娩期の看護1 分娩の要素 分娩の経過と生理 分娩が母体と胎児に及ぼす影響	事前学修(30分)：教科書第4章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題で不足していた部分を補うとともに、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。	大賀
10	【講義】 分娩期の看護2 分娩各期のアセスメントと看護 (分娩経過のアセスメント 心理社会的変化と看護)	事前学修(30分)：教科書第4章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題で不足していた部分を補うとともに、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。	大賀
11	【講義】 分娩期の看護3 分娩期の生理分娩過程からの逸脱と看護① 産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常	事前学修(30分)：教科書第4章および第7章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題で不足していた部分を補うとともに、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。産婦人科診療ガイドラインなどに目を通して見る。	大賀
12	【講義】 分娩期の看護4 分娩期の生理過程からの逸脱と看護② 産科処置を受ける産婦 (帝王切開無痛分娩)	事前学修(30分)：教科書第4章および第7章を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。夏期休業中の課題で不足していた部分を補うとともに、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。産婦人科診療ガイドラインなどに目を通して見る。	大賀

13	【演習】 分娩期にある対象理解と看護CTGの判読など	事前学習(30分)：指定された演習ノートの課題に取り組む。関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。技術の根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。技術演習にふさわしい身なりを整える。事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。授業時間内で経験できなかった部分について、動画を活用するなどイメージ学習を行う。質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。実習前に練習すべき課題を明確にする。	大賀 長坂 柏木
14	【演習】 妊娠期分娩期の看護アセスメント 看護過程 妊娠期② 分娩期②	事前学習(30分)：これまでに学修した知識を復習整理しておく。関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。アセスメントの根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。授業時間内で取り組みきれなかった部分について、納得できるまで取り組み、質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。必要な文献を検索し調べてみる。	大賀 長坂 柏木
15	【演習・講義】看護過程妊 妊娠期③ 分娩期③妊婦の看護アセスメント まとめ	事前学習(30分)：これまでに学修した知識を復習整理しておく。関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。アセスメントの根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。授業時間内で取り組みきれなかった部分について、納得できるまで取り組み、質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。必要な文献を検索し調べてみる。15回の授業の総括を行い、不足していた学習を補って試験に臨む。	大賀 長坂 柏木
成績評価の方法と基準	小テスト10%、定期試験85%、課題への取り組みや出席確認のための毎回のコメントなどを含む授業への取り組み5%		
履修上の留意点	母性看護学概論最終回で提示される、「夏休みの課題」に取り組んでから出席すること。この課題は、速やかに返却しますので、毎回の授業時に持参してください。各自で追加書き込みを行って、発展(発達)させてください。授業参加にあたっては基本的に事前学習をおこなって参加してください。授業開始後20分以上の遅刻は欠席となります。遅刻(授業開始～20分未満)3回で1回の欠席扱いとします。援助を提供する当事者意識を高め、対象に前に立つことを意識して学びましょう。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、特にディプロマポリシーの4・3・8に関連します。専門職としての倫理的判断を持ち、自律性と協働の必要性を考えながら取り組んで下さい。根底にホスピタリティの基盤を忘れないことも重要です。		
教科書	森恵美 他：系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学各論・母性看護学[2]、医学書院、2024。 荒木奈緒 他：ナースングラフィカ母性看護学③、母性看護技術、メディカ出版、2024		
参考書・参考資料	医療情報科学研究所編：病気がみえるVol.10産科、メディックメディア、2018。 荒木勤：最新産科学<正常編>、文光堂、2008。荒木勤：最新産科学<異常編>、文光堂、2008。 その他適宜授業内で紹介します。		
学生との連絡方法	授業は他学年の実習と並行して開講されます。できるだけアポイントメントを取ってください。不在の時は、メールで受け付けます。 大賀明子 水(12:30~13:30)、(16:00~17:00) 長坂桂子 水(12:30~13:30)、(16:00~17:00) 柏木由美 水(12:30~13:30) オフィスアワーとして設定し相談を受け付けます。 メールアドレス 大賀明子(aohga@bunri-c.ac.jp) 長坂桂子(nagasaka@bunri-c.ac.jp) 柏木由美(y-kashiwagi@bunri-c.ac.jp)		
実務経験科目	本科目は、実務経験のある教員が担当しています。		

授業形態	開講学部	看護学部		必修	1	演習	
	3年次	開講期	前期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目 (英名)	母性看護支援論Ⅱ (Maternity Nursing Ⅱ)						
担当教員名	◎長坂 桂子・大賀 明子・柏木 由美 (◎は科目責任者)						
[授業の概要] 妊娠・出産・子育てを、女性のライフサイクルにおける成熟期の発達課題として理解し、周産期おもに産褥期・新生児期にある親子とその家族に対する支援について学修する。 支援論Ⅱでは支援論Ⅰで学修した知識をもとに、異常への逸脱を防ぐだけでなく生理的な変化をより高い健康度で生じることができるような専門職の支援とその方法を学ぶ。また親役割獲得を対象にとつての発達課題達と位置づけ、その達成への支援を学ぶ。							
[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] ヒューマンセクシュアリティ論、生涯発達論、母性看護学概論、母性看護学実習、病態治療学Ⅲ (小児、母性系) 他							
[到達目標] [到達目標] 1) 産褥・新生児の生理が理解できる。 2) 産褥・新生児期に生じる生理的な過程がよりよく経過し、過ごすことができるための看護が理解できる。 3) 親子やその家族のライフスタイルに合わせた、その人らしい出産を経た子育てに向かう支援を考える。 4) 知識を統合して、事例に必要な支援を導き出すプロセスが理解できる。 5) 母性看護に必要な看護技術を学ぶ。							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	4/8_3限	[授業計画オリエンテーション・ガイダンス] [産褥期小テスト] 産褥期の看護 1 産褥経過			事前学修(30分):教科書 p322-334 精読する。過去に出題された褥婦の看護に関する国家試験問題に取り組む。 事後学修(60分):授業内容を復習する。		長坂 大賀 柏木
2	4/8_4限	産褥期の看護 2 褥婦のアセスメント 退行性変化を促す看護・進行性変化を促す看護・母乳育児支援 ★前回授業範囲の小テスト(5問)			事前学修(30分):教科書 p334-345 精読する。 事後学修(60分):授業内容を復習する。		長坂 大賀 柏木
3	4/11_1限	産褥期の看護 3 褥婦と家族の看護 3 母子関係の形成・確立を支援する看護 親役割の獲得を支援する看護・家族の再構成を支援する看護 ★前回授業範囲の小テスト(5問)			事前学修(30分):教科書 p345-366 精読する。 事後学修(60分):授業内容を復習する。		長坂 大賀 柏木
4	4/11_2限	産褥期の看護 4 施設退院後の看護 ★前回授業範囲の小テスト(5問)			事前学修(30分):教科書 p367-377 精読する。 事後学修(60分):授業内容を復習する。		長坂 大賀 柏木
5	4/15_1限	産褥期の看護 5 産褥期の異常・生理的経過を逸脱した褥婦の看護 ★前回授業範囲の小テスト(5問)			事前学修(30分):教科書 p514-532、p541-548 精読する。 事後学修(60分):授業内容を復習する。		長坂 大賀 柏木
6	4/15_2限	[演習 看護過程 褥婦と新生児の看護アセスメント1] 演習用電子カルテを用いて、褥婦の情報収集とアセスメントを行なう。事例展開の演習を行なう。 ★前回授業範囲の小テスト(5問)			事前学修(30分):演習用電子カルテから指定した褥婦の情報収集を行う。 事後学修(60分):授業で行った事例展開を完成させる		長坂 大賀 柏木
7	4/22_3限	[新生児期小テスト] 新生児の生理・看護 1 新生児期の用語の定義、新生児の生理機能と観察・アセスメント			事前学修(60分):教科書を精読する。新生児に関する一般図書を読み、乳児や新生児についてのイメージをもつ。過去に出題された新生児の看護に関する国家試験問題に取り組む。 事後学修(30分):小テスト結果を振り返り、自己の学習課題を明確にする。授業内容を十分復習する。		大賀 長坂 柏木
8	4/22_4限	新生児の生理・看護 2 母体外生活への適応と看護 ★前回の授業範囲の小テスト(5問)			事前学修(30分):教科書p262-304 を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。春期休業中の課題とあわせ、出産・子育てに関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分):授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。		大賀 長坂 柏木
9	5/6_1限	新生児の看護 3 新生児期の成育を支援する看護 新生児の生理機能と観察・アセスメント、新生児期の看護の特徴、新生児の看護目標と看護、家族への看護、新生児の異常 ★前回の授業範囲の小テスト(5問)			事前学修(30分):教科書 P305-320 を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。春期休業中の課題とあわせ、出産・子育てに関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(60分):授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。		大賀 長坂 柏木

10	5/6_2限	新生児の看護 4 生理的経過を逸脱した新生児の看護・家族への看護 [ペリネイタルロス] ペリネイタルロスとは、ペリネイタルロスと看護 新生児の看護過程 ★前回授業範囲の小テスト（5問）	事前学修(30分)：教科書 p489—513、p535—540 精読する。 事後学修(60分)：授業内容を復習する。	長坂 柏木 大賀
11	5/13_3限	[演習 新生児期の対象に必要な看護技術]	事前学習(60分)：指定された演習ノートの課題に取り組む。関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。技術の根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。技術演習にふさわしい身なりを整える。事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。授業時間内で経験できなかった部分について、動画を活用するなどイメージ学習を行う。質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。実習前に練習すべき課題を明確にする。	柏木 長坂 大賀
12	5/13_4限	[演習 新生児期の対象に必要な看護技術]	事前学習(60分)：指定された演習ノートの課題に取り組む。関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。技術の根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。技術演習にふさわしい身なりを整える。事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。授業時間内で経験できなかった部分について、動画を活用するなどイメージ学習を行う。質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。実習前に練習すべき課題を明確にする。	柏木 長坂 大賀
13	5/20_1限	[演習 産褥期の対象に必要な看護技術]	事前学習(60分)：指定された演習ノートの課題に取り組む。関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。技術の根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。技術演習にふさわしい身なりを整える。事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。授業時間内で経験できなかった部分について、動画を活用するなどイメージ学習を行う。質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。実習前に練習すべき課題を明確にする。	柏木 長坂 大賀
14	5/20_2限	[演習 看護過程 褥婦と新生児の看護アセスメント2] 演習用電子カルテを用いて、新生児の情報収集とアセスメントを行なう。事例展開の演習を行なう。	事前学修(30分)：演習用電子カルテから指定した新生児の情報収集を行う。 事後学修(60分)：授業で行った事例展開を完成させる	長坂 柏木 大賀
15	5/23_3限	産褥期・新生児期の看護のまとめ	事前学習(60分)：教科書を精読する。授業で確認したい質問事項を考えてくる 事後学修(60分)：授業内容を復習する	長坂 大賀 柏木
成績評価の方法と基準		小テスト25%、定期試験70%、課題提出を含む授業への取り組み5%		
履修上の留意点		授業開始後20分以上の遅刻は欠席とします。 遅刻(授業開始～20分未満)3回で1回の欠席扱いとします。 教科書は必ず持参してください。 第1回に、これまでの知識の確認と、産褥期の看護に関する看護師国家試験過去問題を活用した小テストを実施します。母性看護に関連する必修問題、妊娠期の看護に関する問題を復習しておいてください。 看護学実習を目前に控えた時期の科目です。自分だったらどの様な援助を提供するかを考えながら受講してみましょう。		
ディプロマ・ポリシーとの関連		本科目は、特にディプロマポリシーの4・3・8に関連します。専門職としての倫理的判断を持ち、自律性と協働の必要性を考えながら取り組んで下さい。根底にホスピタリティの基盤を忘れないことも重要です。		
教科書		森恵美 他：系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学各論・母性看護学[2]、医学書院、2024。 荒木奈緒 他：ナースングラフィカ母性看護学③、母性看護技術、メディカ出版、2024		
参考書・参考資料		医療情報科学研究所編：病気がみえるVol.10産科、メディックメディア、2018。 荒木勤：最新産科学<正常編>、文光堂、2008。荒木勤：最新産科学<異常編>、文光堂、2008。 その他適宜授業内で紹介します。		
学生との連絡方法		不在の時は、メールで受け付けます。 大賀明子 水(12:30～13:30)、(16:00～17:00) 長坂桂子 水(12:30～13:30)、(16:00～17:00) 柏木由美 水(12:30～13:30) オフィスアワーとして設定し相談を受け付けます。 メールアドレス 大賀明子(aohga@bunri-c.ac.jp) 長坂桂子(nagasaka@bunri-c.ac.jp) 柏木由美(y-kashiwagi@bunri-c.ac.jp)		
実務経験科目		本科目は、実務経験のある教員が担当しています。		

授業形態	開講学部	看護学部		必修	1単位	演習	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目（英名）	小児看護支援論Ⅰ（Theory and Interventions in Pediatric NursingⅠ）						
担当教員名	◎茂手木 明美・井上 寛隆・坂田徳生 (◎は科目責任者)						
〔授業の概要〕 生涯発達論、病態治療学Ⅲ及び小児看護学概論における学修をふまえ、子どもと家族の健康レベルに応じた看護・支援について学んでいきます。また、子どもと家族の権利・尊厳と最善の利益を守りながら健やかな成長・発達を支援する小児看護の実際と役割について考えていきます。							
〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 専門科目に位置づく科目です。2年次の小児看護学概論、病態治療学Ⅲに関連しています。3年次の小児看護支援論Ⅱや小児看護学実習に深く関連している科目です。							
〔到達目標〕 1.さまざまな健康レベルにある子どもと家族の特徴を理解できる。 2.さまざまな健康レベルにある子どもと家族の権利・尊厳と最善の利益を守るためのかわりについて考えることができる。 3.さまざまな健康レベルにある子どもと家族が、よりよい生活を送るために必要な看護・支援について考えることができる。							
回	授業計画	授業外学修 (事前学修・事後学修)			担当者		
1	【授業ガイダンス】科目概要・目標・授業予定・評価について 【小児看護学概論振り返り】 【小児に特徴的な症状の観察・看護】 啼泣・不機嫌、発熱、嘔吐、下痢、脱水、けいれんの観察・看護	事前学修（30分）：指定教科書1 p344～412を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。			茂手木 明美		
2	【検査・治療・処置を受ける子どもと家族の看護】	事前学修（30分）：指定教科書1のp416～p469を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。			茂手木 明美		
3	【さまざまな健康レベルにある子どもと家族の看護①】 乳児期にある循環器疾患をもつ子どもと家族の看護	事前学修（30分）：指定教科書2のp190～p221を精読する。指定教科書1で乳児期の特徴を再確認する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。			坂田 徳生		
4	【小児看護技術】 子どもの輸液管理 子どもの与薬	事前学修（30分）：指定教科書1のp419～431、p432～439、3のp104～115、p116～121を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。			井上 寛隆		
5	【さまざまな健康レベルにある子どもと家族の看護②】 幼児前期にある呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護	事前学修（30分）：指定教科書2のp176～p188を精読する。指定教科書1で幼児期の特徴を再確認する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。			坂田 徳生		
6	【小児における看護過程の基本】 子どもの観察・情報収集・整理のポイントと各項目の考え方 小児看護におけるアセスメントの考え方と方法	事前学修（30分）：第1～5回の授業内容を再確認する。 事後学修（30分）：授業内容を整理する。			茂手木 明美		
7	【小児における看護過程の基本】 子どもの観察・情報収集・整理のポイントと各項目の考え方 小児看護におけるアセスメントの考え方と方法	事前学修（30分）：第1～6回の授業内容を再確認する。 事後学修（30分）：授業内容を整理する。			茂手木 明美		
8	【さまざまな健康レベルにある子どもと家族の看護③】 幼児後期にある血液疾患をもつ子どもと家族の看護	事前学修（30分）：指定教科書2のp282～p333を精読する。指定教科書1で幼児期の特徴を再確認する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。			井上 寛隆		
9	【さまざまな健康レベルにある子どもと家族の看護④】 学童期にある腎疾患をもつ子どもと家族の看護	事前学修（30分）：指定教科書2のp338～377を精読する。指定教科書1で学童期の特徴を再確認する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。			井上 寛隆		
10	【小児看護技術】 小児病棟で起きやすい事故と安全対策・環境整備 子どもの身体計測、抱っこ、更衣、オムツ交換	事前学修（30分）：指定教科書2のp520～p536、3のp96～p103を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを復習する。			坂田 徳生		
11	【小児看護技術演習】グループ毎 子どもの身体計測、抱っこ、更衣、オムツ交換	事前学修（30分）：指定教科書1のp296～341、3のp50～76を精読する。 事後学修（30分）：演習の振り返りを行い、課題と改善点についてまとめる。			坂田 徳生、井上 寛隆、茂手木 明美		

12	【小児看護技術演習】グループ毎 子どもの身体計測、抱っこ、更衣、オムツ交換	事前学修(30分)：指定教科書1のp296～341、3のp50～76を精読する。 事後学修(30分)：演習の振り返りを行い、課題と改善点についてまとめる。	坂田 徳生、井上 寛隆、茂手木 明美
13	【小児における看護過程の実際】 情報整理とアセスメントの実際	事前学修(30分)：これまでの授業内容を再確認する。 事後学修(30分)：授業内容を整理する。	茂手木 明美
14	【小児における看護過程の実際】 情報整理とアセスメントの実際	事前学修(30分)：これまでの授業内容を再確認する。 事後学修(30分)：授業内容を整理する。	茂手木 明美
15	【手術を受ける子どもと家族の看護】 【まとめ】本科目のまとめと小児看護支援論Ⅱに向けて	事前学修(30分)：指定教科書1のp256～p268を精読する。 事後学修(30分)：授業で配付したプリントを用いて復習する。	茂手木 明美
成績評価の方法と基準	定期試験(70%)、看護過程(15%)、看護技術演習レポート(15%)で、総合的に評価します。 * 定期試験は100点満点で出題し、その得点を70%換算し、最終評価に活用します。 * 定期試験(本試験)では、60点以上を合格とします。看護過程(15%)および看護技術演習レポート(15%)の得点は最終評価時に加点します。		
履修上の留意点	* 「小児看護学概論」の履修をしていることが望ましい科目です。 「小児看護学実習」に繋がる科目であり、各回内容が異なります。 そのため、体調管理に努め欠席をしないよう履修して下さい。(欠席1回につき、評価点より1点減点します。) * 授業開始後20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻(授業開始～20分未満)3回で1回の欠席扱いとします。 授業時間中の途中退出は、欠席扱いとなります。体調不良等でやむを得ず一時的に途中退出する場合には、教員に申し出てください。 * 授業に参加していない、または履修上の留意点が守られていない等、周囲の受講者に影響を及ぼすと判断した場合には、退室を促す場合があります。その場合は欠席扱いとなりますので十分注意してください。 授業時間中は、スマートフォン等の機器は教員指示があった際のみ使用を認めます。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、看護学部ディプロマポリシーの4・3・2・6と関連しています。 さまざまな健康レベルにある子どもと家族に必要な看護について、自主的かつ自律的に学修することが大切になります。さまざまな状況にある子どもと家族とのかかわりや倫理的判断に基づいた看護実践をとおして、その子らしさや子どもと家族の持っている力を見出すことが大切になります。看護専門職を目指すものとして、子どもと家族に謙虚かつ誠実な姿勢でかかわり、子どもと家族の最善の利益を守ることにつながるよう取り組んでください。		
教科書	1. 奈良間美保他(2023)「系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論(第14版)」(医学書院. 東京) 2. 奈良間美保他(2023)「系統看護学講座 小児臨床看護各論(第14版)」(医学書院. 東京) 3. 山元恵子(2023)新訂第2版「写真でわかる 小児看護技術アドバンス」(インターメディカ. 東京)		
参考書・参考資料	2024年度病態治療学Ⅲ、小児看護学概論の講義資料 その他は、適宜授業中に紹介します。		
学生との連絡方法	必要な連絡は、授業内で行います。 授業に関する質問等は、授業内もしくは情報システムで受け付けます。		
実務経験科目	本科目は、実務経験のある教員が担当しています。		

授業形態	開講学部	看護学部	必修	3	実習	
	3年次	開講期	通年	ディスカッション	有	学外授業
授業科目（英名）	成人看護学実習Ⅰ（Clinical Practice of Adult Health NursingⅠ）					
担当教員名	◎高橋 幸子・森川 奈緒美・大和 広美・関根 みぎわ・藤本 千尋・保坂 嘉成 (◎は科目責任者)					
<p>〔授業の概要〕 慢性の健康障害を持つ対象（終末期を含む）が健康やQOLを維持・向上できるような看護実践ができるように対象を全人的に捉え、病みの軌跡を理解した上で、対象とパートナーシップを築きなたら対象を支援する方法と、そのための基礎的能力を習得します。</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 慢性期・終末期にある成人への看護実践の基礎的知識、看護過程の展開方法、具体的支援方法について学修した2年次までの科目が基礎となります。この科目の内容は、4年次の総合実習の土台となります。（成人看護学概論、成人看護支援論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護学実習Ⅱ、総合実習）</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性の健康障害をもつ対象を人生と暮らしの視点でとらえ、対象の状態や看護の必要性について、看護者としての自分の考えを明確にできる。 看護計画の実施・評価を通じて、慢性の健康障害をもつ対象のセルフマネジメントやQOLの維持・向上に向けた看護計画を具体的に立案できる。 慢性の健康障害をもつ対象への看護の特徴と看護師の役割を理解できる。 看護学生として責任を自覚し、倫理観や主体性・協調性のある行動ができる。 						
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者
	実習期間：2024年6月10日～10月25日のうち3週間 実習内容：方法は実習要項を参照			適宜オリエンテーション時に、 教員より指示します。		高橋 大工原 関根 藤本
成績評価の方法と基準	評価表に基づいて総合的に評価します。詳細は実習要項を参照してください。					
履修上の留意点	履修規定に定められた実習時間数を満たすこと（実習時間の4/5以上の出席）が単位認定の条件となります。詳細は実習要項を参照してください。					
ディプロマ・ポリシーとの関連	ディプロマポリシーの4・3・5・8と特に関連します。					
教科書	成人看護学概論および成人看護支援論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用した教科書、参考書、講義資料など					
参考書・参考資料	その他、適宜紹介します。					
学生との連絡方法	適宜相談に応じます。					
実務経験科目	実務経験のある教員が担当します。					

授業形態	開講学部	看護学部		必修	1	演習		
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	無	学外授業	無	
授業科目 (英名)	老年看護支援論Ⅰ (Gerontological Nursing I)							
担当教員名	◎飯室 淳子・中澤 美弥・阿部祐美子・松岡志津香							(◎は科目責任者)
<p>〔 授業の概要 〕 高齢者の誰もがができる限り健康的な生活ができ、その人らしい人生を送ることができるように支援する老年看護の役割を認識し、加齢変化や疾病を併せ持ちながら生活する高齢者の特徴を踏まえて、高齢者の生活機能の視点でその人が望む生活を営む上で、高齢者の持てる力や強みを活かした看護の提供に向けて学修します。</p> <p>〔 科目の位置付け (全学年を通しての関連科目) 〕 老年看護学概論 (2年次前期) の学修内容を基に、高齢者を看護していく上での必要な知識・技術を学びます。本科目での学修は、3年次の老年看護学実習Ⅰ・Ⅱに繋がります。既習の専門基礎科目や専門科目の学修内容とは相互に関連しています。</p> <p>〔 到達目標 〕 1. 老年期の健康障害の特徴とヘルスアセスメントの方法について理解し説明できる。 2. 老年期にある人々の生活機能を整えるための看護について理解し説明できる。 3. 高齢者が健康的な生活をおくるために必要な看護支援方法について理解し説明できる。 4. 高齢者の健康レベルや自立度に応じた日常生活行動への支援計画の展開ができる。</p>								
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者		
1	科目ガイダンス 高齢者の生活機能を整える看護：コミュニケーション ①老人性白内障 ②老人性難聴			事前学習 (90分)：教科書①第5章A、教科書②第1編6.第2編第1部12.第2部23を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章A、教科書②第1編6.第2編第1部12.第2部23、授業内容を復習する。		飯室淳子		
2	高齢者の生活機能を整える看護：食事 (1) ①嚥下障害 ②誤嚥性肺炎			事前学習 (90分)：教科書①第5章B、教科書②第1編3.第2編第1部5.第2部15を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章B、教科書②第1編3.第2編第1部5.第2部15、授業内容を復習する。		中澤美弥		
3	高齢者の生活機能を整える看護：食事 (2) ①低栄養 ②脱水			事前学習 (90分)：教科書①第5章B、教科書②第1編3.第2編第2部16.17を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章B、教科書②第1編3.第2編第2部16.17、授業内容を復習する。		中澤美弥		
4	高齢者の生活機能を整える看護：排泄 ①尿失禁 ②便秘、下痢 ③支援用具活用の基本			事前学習 (90分)：教科書①第5章C、教科書②第1編4.第2編第2部19.20を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章C、教科書②第1編4.第2編第2部19.20、授業内容を復習する。		中澤美弥		
5	高齢者の生活機能を整える看護：清潔 (1) ①皮膚：老人性皮膚掻痒症			事前学習 (90分)：教科書①第5章D、教科書②第1編5.第2編第2部10を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章D、教科書②第1編5.第2編第2部10、授業内容を復習する。		飯室淳子		
6	高齢者の生活機能を整える看護：清潔 (2) ①口腔：歯周病、義歯の取り扱い			事前学習 (90分)：教科書①第5章D、教科書②第1編5.第2編第2部14を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章D、教科書②第1編5.第2編第2部14、授業内容を復習する。		飯室淳子		
7	看護技術演習：①嚥下困難時の看護 ②排泄ケアの工夫 (支援用具の扱い方)			事前学習 (90分)：教科書①第5章B.C、演習要項内容を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章B.C、演習内容を復習する。		飯室・中澤・阿部・松岡		
8	高齢者の生活機能を整える看護：活動・休息 (1) ①移動・歩行 ②変形性膝関節症			事前学習 (90分)：教科書①第5章A、教科書②第1編2.第2編第1部4を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章A、教科書②第1編2.第2編第1部4、授業内容を復習する。		飯室淳子		
9	高齢者の生活機能を整える看護：活動・休息 (2) ①転倒 ②骨粗鬆症 ③大腿骨近位部骨折			事前学習 (90分)：教科書①第5章A、教科書②第1編2.第2編第1部4.第2部29を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章A、教科書②第1編2.第2編第1部4.第2部29、授業内容を復習する。		飯室淳子		
10	高齢者の生活機能を整える看護：活動・休息 (3) ①生活リズム ②睡眠障害 ③廃用症候群			事前学習 (90分)：教科書①第5章A.E、教科書②第1編1.第2編第2部21を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第5章A.E、教科書②第1編1.第2編第2部21、授業内容を復習する。		飯室淳子		
11	高齢者の生活機能を整える看護：ヘルスアセスメント (1)			事前学習 (90分)：教科書①第4章を精読する。 事後学習 (90分)：教科書①第4章、授業内容を復習する。		飯室淳子		

12	高齢者の生活機能を整えるための支援計画について 支援計画立案演習：生活機能を整えるための支援計画立案（1）	事前学修（90分）：教科書②第1編を精読する。 事後学修（90分）：教科書②第1編、配付「記録用紙No.4支援計画書」のアセスメント、目標を見直し、学生の行動計画、留意・注意すべき点について記載する。	飯室・中澤・阿部・松岡
13	高齢者の生活機能を整える看護：ヘルスアセスメント（2）	事前学習（90分）：教科書①第4章を精読する。 事後学習（90分）：教科書①第4章、授業内容を復習する。	飯室淳子
14	看護技術演習：①杖歩行の介助 ②口腔ケア、義歯の取り扱い	事前学習（90分）：教科書①第5章A.D、演習要項内容を精読する。 事後学習（90分）：教科書①第5章A.D、演習内容を復習する。	飯室・中澤・阿部・松岡
15	支援計画立案演習：生活機能を整えるための支援計画立案（2） まとめ	事前学習（90分）：教科書②第1編、配付「記録用紙No.4支援計画書」の記載内容を見直す。 事後学習（90分）：配付「記録用紙No.4支援計画書」の記載内容と他学生の発表内容とを照合し振り返り、記載内容を整理する。	飯室・中澤・阿部・松岡
成績評価の方法と基準	定期試験（70%）、課題（30%）により総合的に評価します。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・参考書・授業資料を活用し、授業計画に沿って事前・事後学習を行い、主体的に授業に臨んでください。 ・授業開始21分以降は遅刻とします。遅刻3回は欠席1回に換算します。 ・授業中の不必要な会話や、授業とは関連しない行動は授業妨害とみなし、担当教員の判断で退室を指示することがあります。その場合は時間を問わず欠席扱いとします。 		
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシーの特に4・2・3に関連しています。		
教科書	①北川公子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版、医学書院、2024。 ②山田律子他：生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版、医学書院、2024。		
参考書・参考資料	鳥羽研二他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2024。 亀井智子他：根拠と事故防止からみた 老年看護技術 第3版、医学書院、2020。 古田愛子他：新訂版 写真でわかる 高齢者ケアアドバンス、インターメディカ、2020。 その他、適宜紹介します。		
学生との連絡方法	授業開始前後の時間帯および授業日の放課後19:00迄の時間で対応します。 実習期間中など一部対応が難しい場合もあります。事前に担当教員へ希望日時をお知らせくださるとありがたいです。連絡方法の詳細は初回の授業時にお伝えします。		
実務経験科目	本科目は、実務経験のある教員が担当しています。		

授業形態	開講学部	看護		必修	2単位	講義・演習	
	3年次	開講期	前期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目（英名）	在宅看護支援論（Nursing Care of home Care Nursing）						
担当教員名	◎小松 妙子 (◎は科目責任者)						
〔授業の概要〕 在宅療養者とその家族のニーズに合わせた在宅療養準備期～在宅療養終了期までの支援および、在宅という場の特徴に合わせた看護の実践について学修します。							
〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 在宅看護学概論、ヘルスアセスメントⅠ・Ⅱ、生活援助技術、療養援助技術、看護過程論							
〔到達目標〕 1. 退院支援・退院調整を経て在宅療養へと至る過程について理解できる。 2. 在宅療養者と家族への支援方法について理解できる。 3. 在宅療養者と家族に対する看護過程の展開方法について理解できる。							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	授業ガイダンス 在宅における看護実践の基本			事前学修(30分):教科書pp.50-78の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業により学んだことについて復習		小松・非常勤	
2	在宅における看護過程展開の基本			事前学修(30分):教科書pp12~22の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		小松・非常勤	
3	呼吸を整える援助技術<講義>			事前学修(30分):教科書pp186~204の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		外部講師 小松・非常勤	
4	呼吸を整える援助技術<演習> 課題レポート①「在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法を行う療養者や家族への援助」			事前学修(30分):教科書pp186~204の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		外部講師 小松 非常勤	
5	情報の整理1(看護過程)			事前学修(30分):情報の整理 事後学修(30分):情報の整理、わからない用語の復習		小松・非常勤	
6	情報の整理2(看護過程)			事前学修(30分):情報の整理 事後学修(30分):アセスメントを進める		小松・非常勤	
7	アセスメント1(看護過程)			事前学修(30分):情報の整理 事後学修(30分):アセスメントを進める、情報の確認		小松・非常勤	
8	アセスメント2(看護過程)			事前学修(30分):アセスメントを進める 事後学修(30分):アセスメントを進める 情報の確認		小松。非常勤	
9	安全な移動・移乗の援助技術<講義・演習>			事前学修(30分):教科書pp860-103の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		外部講師 小松・非常勤	
10	安全な移動・移乗の援助技術<演習> 課題レポート②「在宅療養者の安全な移乗・移動への援助」			事前学修(30分):教科書pp86~103の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		外部講師・小松・非常勤	
11	食を整える援助技術			事前学修(30分):教科書pp115-135の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		小松・非常勤	
12	排泄の援助技術			事前学修(30分):教科書pp136-160の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		非常勤・小松	
13	清潔の援助技			事前学修(30分):教科書pp161-170,206~218の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		非常勤・小松	
14	薬物療法のための援助技術			事前学修(30分):教科書pp219~229の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		小松・非常勤	
15	エンドオブライフケア			事前学修(30分):教科書pp244-248,330~336の予習 事後学修(30分):教科書該当ページおよび授業内容の復習		外部講師 小松・非常勤	
16	在宅における看護実践の基本2(中間まとめ)知識確認テスト含む			事前学修(30分):第7-15回授業内容の復習 事後学修(30分):授業内容の復習		小松・非常勤	
17	アセスメント3(看護過程)			事前学修(30分):授業内容をもとにアセスメントを進める 事後学修(30分):授業内容の復習、		小松・非常勤	

18	アセスメント4 (看護過程)	事前学修 (30分) : アセスメントを進める、情報の確認 事後学修 (30分) : 授業内容の復習、アセスメントの修正	小松・非常勤
19	アセスメント5 (看護過程)	事前学修 (30分) : アセスメントを進める 事後学修 (30分) : 授業内容の復習、アセスメントの修正	小松・非常勤
20	アセスメント6 (看護過程)	事前学修 (30分) : アセスメントを進める 事後学修 (30分) : 授業内容の復習、アセスメントの完成	小松・非常勤
21	全体像1 (情報関連図)	事前学修 (30分) : アセスメントをもとに健康状態の源連携図を作成 事後学修 (30分) : 授業内容の復習、健康状態連携図の完成	小松・非常勤
22	全体像2 (在宅療養支援体制)	事前学修 (30分) : 社会資源連携図の作成、基礎情報の確認 事後学修 (30分) : 社会資源連携図の完成	小松・非常勤
23	看護計画立案1	事前学修 (30分) : 看護計画の作成 事後学修 (30分) : 看護計画の修正、情報の確認	小松・非常勤
24	看護計画立案2	事前学修 (30分) : 看護計画の作成 事後学修 (30分) : 看護計画の修正、情報の確認	小松・非常勤
25	看護計画立案3 グループワーク	事前学修 (30分) : 看護計画の作成 事後学修 (30分) : 看護計画の修正、情報の確認	小松・非常勤
26	看護計画立案4 グループワーク	事前学修 (30分) : 看護計画の修正 事後学修 (30分) : 看護計画の完成、実施に向けた準備	小松・非常勤
27	実施1、<実習室>	事前学修 (30分) : 看護計画実施に向けた準備 事後学修 (30分) : 授業内容の復習	小松・非常勤
28	実施2 <実習室>	事前学修 (30分) : 看護計画実施に向けた準備 事後学修 (30分) : 看護計画実施内容の評価、看護計画の修正	小松・非常勤
29	医療的ケア児及び家族への地域・在宅看護	事前学修 (30分) : 教科書pp252~265の予習 事後学修 (30分) : 授業内容の振り返り	外部講師 非常勤・小松
30	難病の療養者・家族への地域・在宅看護 まとめ	事前学修 (30分) : 教科書pp296~308の予習 事後学修 (30分) : 在宅看護学実習に向けた授業内容の振り返り	非常勤・小松
成績評価の方法と基準		課題レポート①②③計35%、看護過程40%、知識確認テスト①25%、及び授業への参加度や演習等への参加態度により総合的に評価します。	
履修上の留意点		教科書・参考書・授業資料等を活用し授業計画に沿って事前・事後学修を必ず行ってください。レポートは指定日時までに提出されたものを評価対象とします。	
ディプロマ・ポリシーとの関連		本科目は、ディプロマポリシーの特に4・5・6に関連します	
教科書		河原加代子他著 (2022. 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2. 医学書院. 東京.	
参考書・参考資料		河原加代子他著 (2022. 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1. 医学書院. 東京 臺有桂・石田千絵・山下留理子編 (2022). ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術. メディカ出版. 東京.	
学生との連絡方法		オフィスアワー/授業時間以外の連絡はAAA等を使用することがあります 原則: 授業開講日 外部師: 授業日の休憩時間と授業終了後30分以内	
実務経験科目		本科目は、実務経験のある教員が担当しています。	

授業形態	開講学部	看護学部		必修	1	講義・演習	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目（英名）	精神看護支援論Ⅰ（Psychiatric NursingⅠ）						
担当教員名	◎石川 幸代・原田 瞳・笠井 翔太 (◎は科目責任者)						
<p>〔授業の概要〕 人間の生活と精神機能との関係を理解し、精神の障害による日常生活および身体に及ぼす影響を考える。また、精神機能障害をもつ人とその家族が抱える健康問題について、代表的な精神疾患、精神障害についての知識を基盤に看護事例を取り上げ、その人らしいQOLを目標に、精神看護の技法を活用し、看護の方向性を考える。また、精神医療保健福祉における看護の役割について学び、地域精神医療についても理解を深める。</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 精神保健、精神看護学概論での学びをもとに、精神看護における対象への支援の方法について理解を深め、精神看護学支援論Ⅱ、精神看護学実習につながるものです。</p> <p>〔到達目標〕 1. 精神の障害による日常生活および身体に及ぼす影響を考えることができる。 2. 精神機能障害をもつ人とその家族が抱える健康問題について、代表的な精神疾患、精神障害についての知識を基盤に看護事例を取り上げ、その人らしいQOLを目標に、精神看護の技法を活用し、看護の方向性を考えることができる。 3. 精神医療保健福祉における看護の役割について学び、地域精神医療についても理解を深める。</p>							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
第1回	精神看護支援論Ⅰでは何を学ぶのか？ 授業ガイダンス 精神機能の障害と看護			事前学修（60分）：精神保健、精神看護概論で学んだことを復習する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
第2回	統合失調症を持つ患者の看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
第3回	気分障害をもつ患者の看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		原田	
第4回	パーソナリティ障害・強迫性障害をもつ患者の看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		笠井	
第5回	依存症患者の看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		原田	
第6回	薬物療法と看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		笠井	
第7回	精神科における各種療法と看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		原田	
第8回	精神科救急と看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
第9回	精神科リハビリテーションと看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
第10回	精神科訪問看護とその実際			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
第11回	司法精神看護			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		笠井	
第12回	当事者の体験 ～発症・入院から地域生活まで～			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
第13回	精神看護学領域における看護過程について 精神機能のアセスメント 生活機能のアセスメント（オレム・アンダーウッド理論の活用）			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
第14回	精神に障害をもつ患者の理解：DVD「ビューティフル・マインド」を視聴①			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
第15回	精神に障害をもつ患者の理解：DVD「ビューティフル・マインド」を視聴②			事前学修（60分）：教科書の該当部分を精読する。 事後学修（60分）：授業の内容をノートにまとめる。		石川	
成績評価の方法と基準	授業態度・出席状況 10%、授業レポート 40%、定期試験 50%とします。						

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度としては、自ら考え学ぶ姿勢を大切に自己責任の基に考え、行動するようにしてください。 ・授業には予習・復習をし、常に問題意識を持ち、自己の課題を明確にし、実習につなげていけるように授業参加することを期待しています。 						
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、看護学部のディプロマポリシーの 4, 5, 6 と関連しています。						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 1. 吉松和哉 小泉典章 川野雅資編：精神看護学Ⅰ精神保健学， ヌーヴェルヒロカワ 2. 川野雅資監修：精神看護学Ⅱ精神臨床看護学， ヌーヴェルヒロカワ 						
参考書・参考資料	授業内で適宜紹介、配布します。						
学生との連絡方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">石川幸代</td> <td>オフィスアワー：水 (13:00 ~ 14:00)</td> </tr> <tr> <td>原田 瞳</td> <td>オフィスアワー：火 (11:00 ~ 12:00)</td> </tr> <tr> <td>笠井翔太</td> <td>オフィスアワー：火 (16:00 ~ 17:00)</td> </tr> </table>	石川幸代	オフィスアワー：水 (13:00 ~ 14:00)	原田 瞳	オフィスアワー：火 (11:00 ~ 12:00)	笠井翔太	オフィスアワー：火 (16:00 ~ 17:00)
石川幸代	オフィスアワー：水 (13:00 ~ 14:00)						
原田 瞳	オフィスアワー：火 (11:00 ~ 12:00)						
笠井翔太	オフィスアワー：火 (16:00 ~ 17:00)						
実務経験科目	本科目は、実務経験のある教員が担当しています。						

授業形態	開講学部	看護学部		必修	1	演習	
	3年次	開講期	前期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目（英名）	精神看護支援論Ⅱ（Psychiatric NursingⅡ）						
担当教員名	◎原田 瞳・笠井 翔太・石川 幸代 (◎は科目責任者)						
<p>〔授業の概要〕 精神機能に障害をもつ人に必要な治療的介入や看護技術を、法律・制度を踏まえた上で、実際の演習やグループワーク等を通して、看護実践について考える。精神看護学領域で用いられる看護理論を学び、事例を通して看護過程の展開について学習を深め、精神機能に障害をもつ人とその家族に必要な看護、支援について、その人がその人らしく生活を送ることができるという視点から学習する。</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 精神保健、精神看護学概論、精神看護支援論Ⅰでの学びをもとに、精神看護における対象への支援の方法について理解を深め、精神看護学実習につながるものです。</p> <p>〔到達目標〕 1. 精神機能に障害をもつ人に必要な治療的介入や看護技術を、法律・制度を踏まえた上で、実際の演習やグループワーク等を通して、看護実践について考えることができる。 2. 精神看護学領域で用いられる看護理論を学び、事例を通して看護過程の展開について学習を深めることができる。 3. 精神機能に障害をもつ人とその家族に必要な看護、支援について、その人がその人らしく生活を送ることができるという視点から考えることができる。</p> <p>以上の3項目です。</p>							
回	授業計画	授業外学修 (事前学修・事後学修)			担当者		
第1回	精神看護支援論Ⅱでは何を学ぶのか？ 授業ガイダンス 精神機能の障害と看護(復習) 精神に障害をもつ人の看護過程について	事前学修(60分)：精神看護概論、精神看護支援論Ⅰで学んだことを復習する。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井・石川		
第2回	精神に障害をもつ患者の看護過程①	事前学修(60分)：統合失調症について教科書を精読する。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第3回	精神に障害をもつ患者の看護過程②	事前学修(60分)：統合失調症について教科書を精読する。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第4回	精神に障害をもつ患者の看護過程③	事前学修(60分)：統合失調症について教科書を精読する。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第5回	精神に障害をもつ患者の看護過程④	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第6回	精神に障害をもつ患者の看護過程⑤	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第7回	精神に障害をもつ患者の看護過程⑥	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第8回	精神に障害をもつ患者の看護過程⑦	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第9回	精神に障害をもつ患者の看護過程⑧	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第10回	精神に障害をもつ患者の看護過程⑨	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井		
第11回	ウィーデンバックの再構成①【演習】	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			笠井・原田		
第12回	ウィーデンバックの再構成②【演習】	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			笠井・原田		
第13回	精神看護学実習にむけて①【演習】	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井・石川		
第14回	精神看護学実習に向けて②【演習】	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田・笠井・石川		
第15回	精神看護の課題と展望 精神看護支援論Ⅱのまとめ	事前学修(60分)：前回の授業の復習をする。 事後学修(60分)：授業の内容をノートにまとめる。			原田		

成績評価の方法と基準	授業態度・出席状況 10%、授業内課題 80%、レポート10%とします。
履修上の留意点	・授業態度としては、自ら考え学ぶ姿勢を大切に自己責任の基に考え、行動するようにしてください。 ・授業には予習・復習をし、常に問題意識を持ち、自己の課題を明確にし、実習につなげていけるように授業参加することを期待しています。
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、看護学部のディプロマポリシーの 4, 5, 6 と関連しています。
教科書	1. 吉松和哉 小泉典章 川野雅資編：精神看護学Ⅰ精神保健学，ニューヴェルヒロカワ 2. 川野雅資監修：精神看護学Ⅱ精神臨床看護学，ニューヴェルヒロカワ
参考書・参考資料	授業内で適宜紹介、配布します。
学生との連絡方法	原田 瞳 オフィスアワー：火 (11:00 ~ 12:00) 笠井翔太 オフィスアワー：火 (16:00 ~ 17:00) 石川幸代 オフィスアワー：水 (13:00 ~ 14:00)
実務経験科目	本科目は、実務経験のある教員が担当しています。

授業形態	開講学部	看護		必修	2単位	講義	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目 (英名)	公衆衛生看護活動論Ⅰ (Public Health NursingⅠ)						
担当教員名	◎霜山薫・神庭 純子・伊藤 千春・石井 可奈 (◎は科目責任者)						
[授業の概要] 地域における公衆衛生看護活動を展開するための知識と技術を学修します。 特に対象・健康課題に応じた活動方法や組織化活動の方法について学修します。							
[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] 専門科目の健康支援看護分野に位置づく科目であり、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ や支援基礎看護分野の家族看護論とも深く関連しています。							
[到達目標] 1. ライフステージ別の対象に対応した公衆衛生看護活動について理解する 2. ライフステージ別の対象に対応した公衆衛生看護活動方法について理解する 3. 生活集団の特性や健康課題に応じた公衆衛生看護活動について理解する							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
第1回	[母子保健活動(1)] 母子保健の概要について理解し、わが国の母子保健の動向と保健計画について理解する			事前学修(90分):教科書の目次を確認し、科目の概要を理解する。教科書P255-261を精読する。 事後学修(90分):母子保健の概要、母子保健の動向と保健計画についてまとめる。		霜山	
第2回	[母子保健活動(2)] 現在の母子保健施策の概要を知り、実際の保健指導、健康診査について理解する			事前学修(90分):教科書P261-268、配付資料を精読する。 事後学修(90分):母子保健施策の概要、保健指導、健康診査等について整理する。		霜山	
第3回	[母子保健活動(3)] 妊産婦の健康と保健指導、児童虐待、生涯を通じた女性の健康支援、リスクを持つ母子への支援について理解する			事前学修(90分):教科書P261-285、配付資料を精読する。 事後学修(90分):妊産婦の健康と保健指導、女性の健康支援、リスクを持つ母子への支援について整理する。		霜山	
第4回	[成人保健活動(1)] 成人保健の概要について理解し、わが国の成人保健施策の方向性と現状について理解する			事前学修(90分):教科書P285-286を精読する。 事後学修(90分):配布資料等を活用して成人保健の概要、成人保健施策の方向性と現状等についてまとめる。		伊藤	
第5回	[成人保健活動(2)]健康増進事業における成人保健活動の実際を知り、地域の成人期の対象者に対する保健師活動について理解する			事前学修(90分):教科書P286-295、配付資料を精読する。 事後学修(90分):地域の成人期の対象者に対する健康増進事業における保健師活動についてまとめる。		伊藤	
第6回	[成人保健活動(3)]成人期の主な生活習慣病と保健指導について理解し、実践につなぐ			事前学修(90分):教科書P295-307、配付資料を精読する。 事後学修(90分):成人期の主な生活習慣病と保健指導について整理する。		伊藤	
第7回	[高齢者保健活動(1)] 高齢者保健の理念及び保健・福祉の変遷をふまえて高齢者保健の現状について学習する			事前学修(90分):教科書308-318を精読する。 事後学修(90分):高齢者保健の理念、高齢者保健の現状についてまとめる。		石井 神庭	
第8回	[高齢者保健活動(2)] 高齢者の健康状態と生活特性をふまえて高齢者保健活動の実際について学習する			事前学修(90分):教科書319-324、配付資料を精読する。 事後学修(90分):高齢者保健活動の実際についてまとめる。		石井 神庭	
第9回	[高齢者保健活動(3)] 高齢者の健康状態と生活特性をふまえて高齢者保健活動の実際について学習する			事前学修(90分):教科書324-331、配付資料を精読する。 事後学修(90分):事例を通して学修したリスクを持つ高齢者及び家族への支援について整理する。		石井 神庭	
第10回	[ケースマネジメント] ケースマネジメントの概念を学び、制度とシステムおよび保健師の役割と機能について理解する			事前学修(90分):教科書P193-198を精読する。 事後学修(90分):在宅ケアの制度とシステム、保健師の役割と機能について整理する。		石井 神庭	
第11回	[感染症保健活動(1)] 感染症保健活動の理念及び施策の変遷をふまえて地域保健活動及び保健師活動の概要について学習する			事前学修(90分):教科書P387-402を精読する。 事後学修(90分):地域における感染症保健活動の概要について整理する。		神庭	
第12回	[感染症保健活動(2)] 主な感染症(HIV/AIDS、インフルエンザ、結核)と保健師活動の概要について学習する			事前学修(90分):教科書P402-429、配付資料を精読する。 事後学修(90分):感染症(HIV/AIDS、インフルエンザ、結核)と保健師活動の概要について整理する。		神庭	

第13回	[産業保健活動] 産業保健における健康問題、産業保健の活動体制を理解し保健師の役割と活動内容を学習する	事前学修(90分):教科書P475-515を精読する。 事後学修(90分):産業保健における健康問題、産業保健の活動体制、保健師の役割と活動内容について整理する。 科目の振り返り・まとめをする。	伊藤
第14回	[学校保健活動] 学校保健における主な健康問題と活動の体制及び養護教諭の業務内容の概要を学習する	事前学修(90分):教科書p446-490を精読する。 事後学修(90分):学校保健の健康問題と活動の体制、養護教諭の業務内容の概要について整理する。	神庭
第15回	[口腔保健活動] 歯科保健の理念、歯科保健対策の変遷とその現状をふまえて保健師活動の実際について学習する	事前学修(90分):教科書P431-439を精読する。 事後学修(90分):歯科保健の理念、歯科保健対策の変遷と現状、保健師活動の実際について整理する。	霜山
成績評価の方法と基準	発表やコメント票による授業理解度の確認10%、試験70%、レポート20% を基に総合的に評価します。		
履修上の留意点	・教科書は必ず持参してください。私語は慎んでください。 ・課題提出の際は期日を厳守してください。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、看護学部ディプロマポリシーの3, 4, 5と関連しています。		
教科書	鳩野洋子・神庭純子編(2024)「改訂第6版 公衆衛生看護学.jp」(インターメディカル、東京)		
参考書・参考資料	厚生統計協会編「国民衛生の動向」2023/2024 他、授業の中で適宜紹介します。		
学生との連絡方法	霜山 薫 水(12:30~13:30)、木(16:00~17:00)、伊藤 千春 水(12:30~13:30)、木(16:00~17:00)、神庭 純子 火(12:30~13:30)、木(16:00~17:00)、石井 可奈 水(12:30~13:30)、木(16:00~17:00)に設定しています。 また、授業終了後に教室にて質問を受け付けます。		
実務経験科目	本科目は、実務経験のある教員が担当しています。		